



第15号(2023/06/15発行)

## ○総体・総文・運動会、お疲れさまでした。

総体、総文、運動会、お疲れさまでした。三年生が主体となって参加する学校行事も、これで一段落となりました。例年この時期に三年生に伝えていることを6月7日の学年集会でお話ししましたが、その内容について学年通信にも再録します。

### ・運動会、応援団お疲れ様でした。

→応援団はここ10年見てきた中でも最高の内容だったと思います。伝統とされているものを実施するにあたっての葛藤、慣例の踏襲ではない形で、かつ伝統を尊重しようとする思いがこもった応援披露でした。また、途中に挟まれた寸劇も、非日常を表現しながらも日常とのつながりを感じさせる笑いにあふれています。それと同時に観客に問い合わせかける要素もあり、単なるコメディにとどまらない舞台でした。運動場を広く使った演劇的な演出も素晴らしかったです。観客側も、受容的・共感的な雰囲気づくりができていました。応援披露が作り手と受け手、双方の相互作用によって成立しているのが良くわかりました。75回生がこのような表現を作り上げ、受け止められる集団であることを、担任の一人として誇らしく思います。良い問題提起でした。

また、「電車ごっこ」の種目でアクシデントが起きた際に、不平不満を述べるのではなく、その環境で楽しもうとする皆さんの姿、とても良かったです。良い結果を出すことも大事ですが、良いプロセスを過ごすことも大事です。それを感じた出来事でした。

### ・総体、総文からの切り替えが大事

→3年生まで部活動を続け、頑張り続けてきた皆さん、お疲れ様でした。最後の大会、良い結果が出なかった人も、不本意な結果だった人もいると思います。が、目に見える結果だけがすべてではありません。続けてきた過程で学んだこと、得られたこと、それらは皆さんに今後生きてゆく人生の財産になると思います。本当に3年間、お疲れさまでした。野球部・吹奏楽部・クイズ研究会はあともうひと頑張りですね!

### ・ハレの舞台とケの舞台はつながっている

→部活動の大会という非日常の舞台は、日常の練習の成果とつながっています。応援団という非日常も、日常の学校生活とつながりがある部分が、問を深めるきっかけとなっていました。大学受験という非日常も、日常の学習・授業の上に立っています。

プロレスラーも華やかなリングの上の活躍の背後には、日常の血のにじむようなトレーニングがあるでしょう。また、初代ポケモンのニビシティジムにヒトカゲで挑むためには、草むらでレベルアップをする必要があるように、目的を達成するためには積み重ねが必要です。これから進路選択に向けて、しっかり切り替えて目標に向かいましょう!

### ・追記:学年集会では話さなかったこと

その一方で、オープンワールドのゲームのように、目的を再考することもあって良いと思います。皆さんの未来は一本道のRPGのシナリオではありません。進路を深く考える良い時期もあります。学習に打ち込むためにも、改めて自分自身の目標について、なぜその目標を立てているのか、自分はどうなりたいのか、考えてみるのも良いでしょう。

## ○公共物・公共スペースの使用について

学校内で、公共物が破損する事例がありました。また、公共のスペースの活用のしかたについても、より高い水準を求めたい部分があります。3階の廊下や教室には、公共のスペースに私物が散乱している状態も時に目にします。凡事徹底、普段の生活を大切にすることが将来にもつながります。身の回りの整理整頓から始めてみましょう。きっと学習効率の向上にもつながるはずです。